



『(仮)つくば市子育て支援ハンドブック』の作成

以前にもニュース・レターでお知らせしたとおり、「かるがも・ねっと」はつくば市からの委託である『(仮)つくば市子育て支援ハンドブック』(つくば市子育て支援総合推進モデル市町村事業の一環)の作成に協力します*。そこで、今回は、このハンドブックの作成を取り上げます。

「かるがも・ねっと」では、学習会やニュース・レターを通じて、掲載項目や説明文、レイアウトなど冊子づくりに関わる情報をお伝えしていきます。同時に、参加団体の皆さまからのご意見を募集していきます。2月21日に行われる学習会のときに、掲載項目や説明文、レイアウトについて話し合っていく予定です。ぜひご参加ください。

冊子のねらい：利用者である乳幼児・小学生をもつ親が使いやすいもの。「相談してみようかな」、「行ってみようかな」という気持ちになれるようなもの。

冊子のサイズ：A5版 24頁程度。見出し付き

冊子に関する問い合わせ先・・・筑波大学教育社会学研究室
FAX：029-853-4829 / メール：edu_socio@yahoo.co.jp

< 掲載する予定の内容 >

- | | |
|---|--|
| (1) 「利用者の方へ」 | (6) 「教えて！子育て」 |
| (2) 「困ったときには・・・」 | 〔 子育て教室や講座の紹介 読み聞かせ、素話、パネルシアターなどのサークル紹介 説明文＋それぞれの活動のアピール文・活動日・活動時間帯など〕 |
| 〔 窓口：つくば市地域子育て支援センター 夜間診療・休日診療について 問い合わせ先紹介〕 | |
| (3) 「子育て、応援します」 | (7) 「一緒に、遊びましょう」 |
| 〔 経済的援助や子どもの預かりについての紹介 窓口の問い合わせ紹介〕 | 〔 親同士で活動をつくり、親子で交流し、遊ぶ場の紹介 説明文＋それぞれの活動のアピール文・活動日・活動時間帯など〕 |
| (4) 「相談してください」 | (8) 「施設いろいろ」・・・折り込み |
| 〔 子育て相談、健康・発達相談、教育相談などの紹介 子育てに関する情報を入手するための方法の紹介 窓口の問い合わせ先紹介〕 | 子育てに関連する施設一覧(所在地と問い合わせ先) |
| (5) 「ほっとひと息、おしゃべりしましょ」 | (9) 「どこにあるの？(地図)」・・・折り込み |
| (立ち寄って、親子が過ごせる場所の紹介) | 市全体の地図と学園部の拡大地図 |
| 説明文＋それぞれの活動のアピール文・活動日・活動時間帯など | 施設の所在がわかるマーク入り |

* 「 」内は見出し文です。

* 「(仮称)つくば市子育て支援ハンドブック」は、筑波大学大学院人間総合科学研究科ヒューマン・ケア科学専攻共生教育学(教育社会学)研究室が市と協働しながら作成するものです。

🍀 「児童館における子育て支援」の紹介 🍀

－ 第 4 回 「かるがも・ねっと」学習会より－

1月24日の学習会では、「児童館及び母親クラブにおける子育て支援」について、つくば市東児童館館長である関みよ子先生とつくば市地域活動連絡協議会（母親クラブ）副会長である浦里晴美さんにお話を伺いました。日頃利用している方が多い児童館がテーマであったこともあり、活発な意見交換が行われました。ニュース・レターでは、関先生のお話からは東児童館における新しい試みを、浦里さんのお話からは母親クラブの一つの活動である親子サークルの取り組みを紹介しします。その上で、学習会でだされた児童館の活用をめぐる提案をいくつか紹介しします。



1. 児童館の取り組み

東児童館の利用状況と新しい試み

東児童館は、昨年4月に開館した、つくば市で最も新しい児童館です。1日を通して見ると、およそ140～150名の利用があります。午前は主に就学前の親子や高齢者の利用があります。この時間帯には、親子サークルやボランティアグループによる子育て中の親子の居場所づくりが行われており、子育て中のお母さんたちが友だちをつくるきっかけになっているようです。

午後は学童保育を利用する子どもたちのほか、一般来館で来る小・中学生が利用しています。この時間帯は利用者が大変多いので、館の職員3名の他に児童厚生員やアルバイトの大学生が加わり、子どもたちの遊びを見守ったり、一緒に遊んだりしています。その際心がけていることは、できるだけ子どもの成長の芽を摘まないように子どもに接することです。また、館では、自由に遊んでもらうだけでなく、小学生向けに、季節の行事や、スポーツや華道、手芸クラブなどの企画を通して、子どもにいろいろな経験をしてもらったり、礼儀作法を身につけてもらったりする機会をつくっています。

今、児童館は転換期を迎えています。児童館は児童厚生施設なのですが、小学生を中心とした子どもの遊び場や学童保育の場としてだけではなく、少子化・高齢化に向けてさまざまな取り組みが求められています。ひとつの取り組みとして東児童館では、中・高校生が利用しやすいよう、館内はあまり幼稚にならないような装飾を心がけています。より多くの中・高校生が気軽に「居場所」として利用できるよう、夜も開館できないか模索しているところです。

また、新たな試みとして月に1回、高齢者の「ふれあいサロン」を開いています。この地域には公民館がないため、「高齢者も使えませんか？」と声をかけられたのがきっかけです。この「ふれあいサロン」は、お年寄りの方々と、子どもたちや大学生とがふれあえる家庭的な時間にしています。この試みは、地域の中に高齢者を含めた様々な人がいることを子どもが知るよい機会になっていると思います。

今後の課題

児童館では職員の異動が早いため、じっくりと地域に根ざした活動ができないことが問題です。また、「お役所仕事」になりがちな職員もいると聞き、時代に即した活動がなかなか行えていないことも課題です。児童館にはまだまだ工夫できることがたくさんあると思います。職員ももっと勉強して、地域の皆さんに利用してもらいやすい取り組みをする必要があると感じています。

2. 母親クラブ（地域活動連絡協議会）の取り組み

母親クラブは、児童館などの公共施設を中心にボランティア活動をしている組織です。クラブは、親子で参加する「親子サークル」（「幼児クラブ」「親子クラブ」とも呼ばれています）と、児童文化（パネルシアター、人形劇、おはなし会など）に関わる「大人サークル」からなります。つくば市の17のクラブには、約1,300名（大人のみ）の会員がいます。母親クラブは、ただ子どもを遊ばせるためだけのクラブではなく、お母さんたちが活動や交流を通して自分達の意識を高めたり、ネットワークをつくったりするのが目的です。ちなみに、一緒にサークルの活動を行ってくれるのであれば、父親やお兄さん・お姉さんなどの参加もOKです。

親子サークルは、就園前の子どもやその親を対象に、だいたい週に1回開かれています。季節行事や親子体操などの内容は、すべて自

分たちで決めて行っています。時には、相互保育をして母親のリフレッシュをはかることもあります。こうして見ると、乳幼児家庭教育学級と少し似ていますが、乳幼児家庭教育学級は公民館で活動し、指導員がいるのに対して、母親クラブは主に児童館で活動し、指導してくれる先生はいない、といった違いがあります。クラブの事務局が児童館になっていますし、クラブを立ち上げるときは児童館職員に関わってもらうこともありますが、基本的には自主運営です。

母親クラブの活動を通して、子育て中に感じる、社会から離されたような閉塞感や不安を解消できたり、大人になってからはなかなか難しくなる友だちづくりができ、そのつながりが続いていったりするのが素晴らしいと思います。



母親クラブが抱える課題

ただ、問題点もあります。ひとつには、継続性がないということです。つくば市では転出入の親子が多いので、継続的に地域に根ざした活動がしにくくなっています。また、「親子サークル」で母親自身が学んできたことを、子どもの手が離れたら、ぜひ「大人サークル」で他の親子に還元してほしいのですが、働きに出てしまう人が多いため、「大人サークル」の活動になかなか結びつきません。その点でも継続性がないといえます。

二つ目に、市内での地域による温度差があるということです。学園地域ではいくつものサークルが存在し、そのうえ定員を決めなけ

ればならないほど参加者が多い一方で、周辺部では親子サークルがやっと一つ、といった感じ です。

三つ目に、児童館職員との関係がなかなかうまくいかないということです。母親クラブは児童館に依拠して活動をすすめていますので、児童館職員の理解が少ないと活動がしにくいのは当然です。しかし児童館には、時折、子どもが苦手な職員が配置されることもあったりして、母親クラブの活動を理解していただけないこともあります。クラブの方からも歩み寄って児童館とよい関係を保ちつつ、よりよい活動を行えたら、と思います。

3. 児童館の活用をめぐる話し合いの中から出た意見・提案

児童館と母親クラブの話を受けて、児童館の活用をめぐる次のような意見が出ました。様々なグループによる協力をもとめつつ、児童館の活動を展開する。

職員だけで児童館の活動を実施していくのには限界があるので、児童館を利用している母親クラブや子育て支援グループ、地域ボランティアなどに協力を求めていっては、という提案が出されました。そうすることで、新しい試みがうまれたり、今よりも充実した活動が行えたりするのではないのでしょうか。

児童館周辺の住民を交えて、児童館運営に関する話し合いの場をつくる。

地域にある児童館をよりよくしたい、地域によって児童館に求める子育て支援の在り方が異なっているという意見が多数出されました。その中で、児童館が抱えている問題、児童館での過ごし方や使い方をどのようにしていったらよいのかを、そこを利用する住民と話し合う場を設けられるとよい、という提案がなされました。よりよい児童館のあり方をそれぞれの館において、職員と住民と一緒に考えていくことが必要になってきているのではないのでしょうか。

<補足> 「児童厚生員」・「母親クラブ」

「児童厚生員」

児童館・児童センターは、児童厚生施設のひとつであり、地域の子どもたちが遊んだり、スポーツや文化活動をしたりすることを通じて、健康で、豊かな情操を育むことを目的にしたものです（児童福祉法第40条）。つくば市には、16の児童館と1つの児童センターがあります。各児童館には、児童館職員の他に、子どもたちの遊びを援助したり、遊び場の環境づくりを行ったりする専門職員として、児童厚生員が2名ほどいます。ちなみに、つくば市の児童厚生員は市の嘱託職員です。児童厚生員は、保育士や教諭（幼小中高）の資格を持っている人、または大学において教育学、体育学などの学科を修めて卒業している人がなっています。

「母親クラブ」（現「地域活動連絡協議会」）

昭和の初めに保育所等が母親のつどいを始めたのが母親クラブのはじまりといわれています。その後、各地域で母親による組織活動が誕生しました。昭和23年に、地域住民による地域児童の健全育成を目的とした地域組織として、母親クラブは公的に提唱されました。それ以後、旧厚生省・各都道府県・市の関係行政機関・児童厚生施設や財団法人児童健全育成推進財団（旧財団法人東邦生命社会福祉事業団）などの支援を受け、活動を行ってきています。平成14年4月に、「全国母親クラブ連絡協議会」の名称は「全国地域活動連絡協議会（愛称：みらい子育てネット）」に変更されました。現在、親子及び世代間交流・文化活動、児童養育に関する研修活動、児童事故防止のための活動、児童館日曜日等会館活動、その他児童福祉の向上に寄与する活動という5つの柱を掲げ、活動しています。

♡♡お知らせ♡♡

第5回学習会「保健センターから考える子育て支援」

今回は、桜保健センターの係長（保健師）さんが、保健センターからみた子育て支援についてお話をしてくださいます。学習会の後半は、『(仮)つくば市子育て支援ハンドブック』に掲載する内容や説明文、レイアウトなどについて、検討を行う予定です。ぜひご参加ください。

日時：平成17年2月21日（月） 13：30～16：00

場所：桜庁舎4階、第3会議室

募集！！

☆ 子育て支援に関するイベントや情報などを募集しています。

ニュース・レターは毎月7日頃に発行する予定です。それにあわせて、イベントの情報（タイトル、内容、開催日時、場所、問い合わせ先）をお知らせください。

* 毎月30日までに下記のお問い合わせ先までご連絡ください。

☆ ニュース・レターに使用するイラストを募集しています！

「花、家、子ども、親子、動物、飾り、季節もの」などのイラストを募集します。

問い合わせ先：FAX 029-853-4829 / メール edu_socio@yahoo.co.jp
（筑波大学教育社会学研究室）

発行：つくば市子育て支援ネットワーク **かるがも・ねっと**（設立準備委員会）

「かるがも・ねっと」は、つくば市にある子育て支援に関わる機関・団体・サークル、ボランティアのネットワークでつくりられています。

発行日：2005年2月4日

編集：遠藤宏美・渡辺恵

問い合わせ先：edu_socio@yahoo.co.jp / FAX：029-853-4829（筑波大学教育社会学研究室）